

## 施策の展開 IV 「地域に根ざした水産業の競争力の強化とみやぎブランドづくり」

～「競争力のある水産業の構築」(条例第8条第1項第4号関係)～

### 【取組状況・成果】

#### 1 付加価値の高い製品の開発及び販売の促進

本県水産物のブランド化を図るため、生鮮物及び水産加工品等の県産品の展示販売会や商談会等を県内外はじめ、中国、韓国でも開催するとともに、生産者等が行う商品開発及び販売活動への支援を行いました。

また、地域に埋もれた絶品等をトップブランドに育てる取組を実施したほか、地産地消の取組を支援する等、幅広い取組を実施しました。

### 【平成19年度の主な実績・成果】

#### (1) 大型産地の優位性を生かした高付加価値化・ブランド化の推進

イ 本県の優れた県産品及び観光資源を県外主要都市の消費者に広く紹介し、理解と普及を図るとともに、県産品の販路拡大及び観光誘致を通して、本県の地場産業及び観光産業の育成・発展に資するため、「そごう横浜店(横浜市)」ほか全国の百貨店5会場にて「宮城県の特産と観光展」を開催しました。

[食産業振興課]

※平成19年度実績

物産展全体	出展者数	延べ343業者
	売上総額	369,891千円
うち水産物関係	出展者数	延べ74業者
	売上総額	94,843千円

ロ 本県の魚市場に水揚される魚介類を、市場流通機能を活用して全国に響くトップブランドとするため、対象魚種に関する品質基準策定等ブランド形成の取組を支援しました。

[食産業振興課及び仙台・石巻地方振興事務所]

事業実施主体 石巻市水産振興協議会  
塩釜市水産振興協議会

ハ 宮城県漁業協同組合が行った県内外での料理教室の開催及び量販店等でのイベントの開催等、本県の主要な養殖水産物等についてブランドの確立及び販路拡大を図るための取組を支援しました。

[食産業振興課]

二 本県の豊富で優れた食材を首都圏へ発信することによって「食材王国みやぎ」を総合的に推進するため、首都圏の有名ホテルの料理人等を本県の生産現場へ招へいするとともに、それらホテル等における「食材王国みやぎフェア」の開催を支援しました。  
[食産業振興課及び東京・大阪事務所]。

フェア開催ホテル（平成19年度実績）

- パンパシフィックホテル横浜（5月10日～6月30日）
- ホテル日航東京（6月1日～7月20日）
- ロイヤルパークホテル（7月1日～7月31日）
- ホテルメトロポリタン（7月1日～7月31日）
- 中野サンプラザ（7月1日～7月31日）
- ヒルトン大阪（7月5日～9月4日）
- ホテルグランヴィア大阪（9月1日～30日）
- ホテルオークラ東京ベイ（9月15日～24日）
- 神戸ポートピアホテル（3月20日～5月6日）

(2) 高齢化等社会環境の変化を見据えた加工技術及び未利用資源の活用による新商品の開発

イ 消費者ニーズ等を見据え、加工技術の開発支援（加工相談件数246件）、低・未利用資源の活用等による新素材の開発及び機能栄養成分等に着眼した加工法の検討や、新形態の加工品の開発試験を行いました。

[水産業振興課及び水産加工研究所]

ロ 中小企業等が地域資源を活用して行う商品開発・販売開拓等の新たな取組に対し、支援しました。

[食産業振興課]

※平成19年度取組事例・成果

a. 奥田建設株式会社

薬菜わさびを活用した加工品の開発

b. 有限会社伊豆沼農産

伊達の純粹赤豚を活用した生ハムの開発と販路開拓

ハ 県内魚市場に大量に水揚げされるものの用途が限定されていたイサダ（ツノナシオキアミ）等について、加工原料としての新たな利用法について検討しました。

[水産業振興課及び水産加工研究所]

(3) 水産物の競争力強化のためセールスポイントを明確にした販売戦略推進

イ 県内市場に水揚げされる主要水産物、地域に埋もれた水産物、主要養殖魚種などのブラ

ンド化にあたり、旬へのこだわりや鮮度の数値化、販売ルートの限定等、ブランド要素の明確化や販売戦略づくりを支援・指導しました。

[食産業振興課及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

ロ 各地方振興事務所単位で地域の課題を洗い出し、他事業と連携もしくは単独でこれら課題を解決するため、水産物の新たな用途開発や販売PRの展開、独自の食文化の継承等について取組みました。

[仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

#### (4) 地域におけるブランド製品の認知基準づくり等の取組推進

イ 気仙沼市水産加工業振興協議会が実施した気仙沼地域HACCPに基づいた新たなブランド認証商品の開発・販売への取組を支援しました。

[水産業振興課及び気仙沼地方振興事務所]

ロ 本県魚市場へ水揚げされる主な魚種ごとに、差別化の要素を明らかにし、おいしさ等の基本的機能とともに、健康増進等副次的機能を整理し、ブランド化推進に寄与する資料作成に関する基礎調査を行いました。

[水産業振興課及び水産加工研究所]

#### (5) 水産加工品の販路開拓のための販売側との情報交換

イ 水産物需要の多様化に即した水産加工品の新製品の開発、品質及び製造技術の向上等を目的として宮城県水産加工業協同組合連合会と県の共催による水産加工品品評会を開催しました。

[水産業振興課、仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所及び水産加工研究所]

ロ 県内バイヤー及び首都圏高級スーパー等のバイヤーと県内食品メーカーとの逆商談方式での「みやぎビジネス商談会」を開催しました。

[食産業振興課]

#### ※平成19年度実績

##### a. 食材王国みやぎビジネス商談会

日 時 平成19年6月19日

場 所 ホテルメトロポリタン仙台

参加者数 仕入業者：41社、納入企業：93社

##### b. おいしい山形・食材王国みやぎビジネス商談会

日 時 平成20年1月24日

場 所 ホテルメトロポリタン仙台

参加者数 仕入企業：36社、納入企業：79社

## (6) 地産地消の推進

イ 本県を代表する旬の水産物を、県民や観光客等に提供する身近な場所（鮮魚店・飲食店等）を創出・PRすることで、県産水産物に対する県民理解や認知度の向上、地産地消の推進及び水産物・水産業に対するサポーターの拡大を図るための取組を推進しました。

[水産業振興課]

ロ 地域産業の振興及び県産品の消費拡大等を図ることを目的として、農林水産業者、製造加工業者、販売業者等が一堂に会し、これらの産業分野を横断した県産品の展示販売「みやぎまるごとフェスティバル」を開催しました。

[食産業振興課]

※平成19年度実績

開催月日 平成19年10月20日及び21日

開催場所 県庁、勾当台公園、市民広場、一番町四丁目及び古図広場

ハ 地産地消を効果的に推進するため、毎月第1金曜日から日曜日までの3日間を「食材王国みやぎ地産地消の日」に設定し、県産食材の利用促進やさらなる消費の拡大を図ることとしました。

[食業振興課]

ニ 学校給食等において地域食材を利用するとともに、伝統食文化の継承を図るため、地域水産物を利用した給食メニューの開発・提案を行い、給食素材メーカーや給食センターと意見交換を行いました。

[水産業振興課及び水産加工研究所]

## (7) 海外市場の開拓支援

本県の優れた製品の海外での販売を通じて地域経済の活性化を図るため、他県等と共同で「大連商談会」（中国・大連市）、「宮城・山形食品試食商談会in香港」（香港）及び「東北フェアin上海（食材フェア）」（中国・上海市）を開催したほか、「台北国際食品見本市（FOOD TAIPEI）」（台湾・台北市）及び「ソウル国際食品展示会」（韓国・ソウル市）にブースを設置し、海外とのビジネス志向のある企業の支援を行いました。

[国際経済課]

※平成19年度実績

a. 「大連商談会」（本県関係）

出展者数	14社	うち水産物関係	出展者数	6社
			商談件数	74件

b. 「宮城・山形食品試食商談会in香港」（本県関係）

出展者数	9社	うち水産物関係	出展者数	4社
------	----	---------	------	----

- 商談件数 40件
- c. 「東北フェアin上海（食材フェア）」（本県関係）
- 出展者数 10社 うち水産物関係 出展者数 7社
- 商談件数 188件
- d. 「台北国際食品見本市（FOOD TAIPEI）」（本県関係）
- 出展者数 5社 うち水産物関係 出展者数 4社
- 商談件数 210件
- e. 「ソウル国際食品展示会」（本県関係）
- 出展者数 3社 うち水産物関係 出展者数 3社
- 商談件数 21件

【主な事業】

課 名	事業費(千円) [決算額]	事 業 名
水産業振興課	13,612 [9,140]	みやぎのお魚12つき提供事業 みやぎの誇れる水産加工品PR事業（再掲） 水産物の安全・安心普及事業（再掲） 前浜発地域水産加工品発掘事業 県内褐藻類を利用した新加工品の開発 水産物を用いた新規発酵調味料開発試験 かついづ資源の高度利用による地域活性化計画研究 食育推進のための製品開発及びブランド化構成要素の調査研究 食育・地産地消推進事業
食産業振興課	78,139 [40,004]	物産展等開催事業 みやぎまるごとフェスティバル開催事業(再掲) 食材王国みやぎ食産業活性化支援事業 （食品製造業振興プロジェクト） みやぎの水産物トップブランド形成事業 食材王国みやぎ総合推進事業
国際経済課	18,541 [18,541]	大連商談会 宮城・山形食品試食商談会in香港 東北フェアin上海 台湾国際食品見本市（FOOD TAIPEI） ソウル国際食品展示会

## 2 研究開発と成果の普及の促進

水産研究開発センター、気仙沼水産試験場、内水面水産試験場、水産加工研究所及び栽培漁業センターにおいて、平成16年に作成した「水産試験研究基本計画」に基づき、本県の自然と共生した地域社会を支える活力ある水産業の発展と、安全で良質な水産物を安定して供給するための技術開発や調査・研究を行いました。

なお、次年度の普及指導部門を組み入れた組織再編や水産加工技術の支援強化、水産業をめぐる情勢の変化等から、「水産試験研究基本計画」の中間見直しを行い、「水産業試験研究推進構想」として取りまとめました。

得られた成果については、養殖通報等として随時提供するとともに、研究成果発表会、研修会、個別相談等を通じ普及を図りました。

なお、技術開発や調査・研究の実施に際しては、学識経験者等専門委員による外部評価を行い、本県産業振興諸施策を踏まえた成果重視型の試験研究を推進しました。

### 【平成19年度の主な実績・成果】

#### (1) 水産業者及び消費者ニーズに対応した研究開発の推進

水産資源の維持管理のための調査研究、高級二枚貝や海草類生産技術の安定、マボヤに見られた新疾病の疫学的な調査、磯焼け対策技術開発等、水産業者及び消費者ニーズに対応した研究開発の推進に努めました。

[水産業振興課、水産研究開発センター、気仙沼水産試験場、内水面水産試験場、栽培漁業センター及び水産加工研究所]

#### (2) 研究開発推進計画の策定及び研究成果の評価体制の充実

水産関係諸施策を具現化するため試験研究の推進方策と達成すべき目標を明示した「水産試験研究基本計画(2004)」を平成16年6月に作成し、その方向性に沿った試験研究に取り組みました。

なお、次年度の普及指導部門を組み入れた組織再編や水産加工技術の支援強化、水産業をめぐる情勢の変化等から、「水産試験研究基本計画」の中間見直しを行い、「水産業試験研究推進構想」として取りまとめました。

また、学識経験者等で組織する外部評価委員会において、試験研究成果の評価を行い、効率的・効果的な試験研究業務の実施に努めました。

[水産業振興課、新産業振興課、水産研究開発センター、気仙沼水産試験場、栽培漁業センター及び水産加工研究所]

#### (3) 研究成果の普及及び定着

平成19年7月3日に「宮城県水産関係試験研究機関試験研究成果発表会」を開催し、9課題の口頭発表及び1課題のポスター発表と各試験研究機関の情報展示を行うとともに、試験研究機関の研究成果・トピックスを「宮城県水産研究報告」「みやぎ・シー・メール」として刊行しました。

また、「漁海況情報」、「沿岸養殖通報(ノリ、カキ、ホタテガイ、ワカメ)」、「海洋観測(水質)情報(気仙沼湾、志津川湾、仙台湾等)」等の各種通報を関係機関へFAXするとともに、

ホームページに掲載しました。

[水産業振興課，水産業基盤整備課，水産研究開発センター，気仙沼水産試験場，内水面水産試験場，栽培漁業センター，水産加工研究所及び仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所]

#### (4) 国，関係都道府県，県内各研究機関，水産業者等との連携による研究開発の実施

我が国周辺水域におけるサンマ，マサバ等の水産資源や国連海洋法条約において保存・管理協力が義務付けられている，カツオ・マグロ等の高度回遊性魚類の安定的な利用確保のため，独立行政法人水産総合研究センター及び他県の研究機関と連携して資源動向の把握を行いました。

種苗放流が天然資源の遺伝的多様性に影響を与える可能性を調べるため，独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所や福島県とホシガレイを対象として調査を行いました（先端技術を活用した農林水産高度化事業）。

ホヤで見られた新疾病の疫学的調査等について，独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所及び養殖研究所，北海道大学等と連携して実施しました。

また，仙台湾で大量に発生したヒトデをバイオマス資源として有効に利用するため，たい肥化試験を畜産試験場と連携して行いました。

[水産業振興課，水産研究開発センター，水産加工研究所，畜産試験場及び産業技術総合センター]

#### 【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
水産業振興課	39,729 [39,400]	試験研究機関業務外部評価推進事業 試験研究調整事業 漁業情報提供事業(再掲) 水産業関係試験研究事業(再掲)

### 3 産業間・産学官の連携による新たな事業の創出の促進

農・林・畜産業等多様な一次産業，優れた技術に裏打ちされた水産加工業及び大学等研究機関等が連携して新たな事業を創出するため，産業間・異業種間の連携を促進し商品開発等の事業実施を図るとともに，新たな加工品づくりを促進するため食品関係団体への支援を行いました。

## 【平成19年度の主な実績・成果】

### (1) 農・林・畜産業等との産業間連携の促進

農林水産物の生産から加工、流通、販売に関わる各業種が一同に介して、地域の農林水産業・食品産業の現状や課題について、検討や意見交換を行い、食関係産業者の連携を推進するため、「石巻地域食産業連携推進会議」を設置しました。

〔石巻地方振興事務所及び食産業振興課〕

### (2) 企業の製品開発力等の有効利用による新たな事業展開の促進

宮城県の食料品製造業の中核である水産加工業の出荷額を向上させるため、「水産加工業振興プロジェクト」を新たに発足しました。

プロジェクトでは、県内の水産加工業者の約半数（228社）を訪問し、現在の状況やこれから取組むべき課題などについて御意見を伺いました。

なお、これらの御意見に対する具体的な取組は、次年度以降に展開することとしています。

〔水産業振興課、仙台・石巻・気仙沼地方振興事務所及び水産加工研究所〕

## 【主な事業】

課名	事業費(千円) [決算額]	事業名
食産業振興課	124 [124]	食産業クラスター支援事業 (食品製造業振興プロジェクト)
水産加工研究所		水産加工業振興プロジェクト(非予算)